

無口は、悩みではなく才能だ。

無口である分、よく考えられる。

「無口な人」と言えば、世間から悪い印象を持たれがちです。

口数が少ないと、何を考えているのか分からないと思われる。

もっと話をたくさんして、コミュニケーションを取るべきだと言われます。

もちろん挨拶や意思疎通など、最低限のコミュニケーションは大切です。

しかし、いくらコミュニケーションが大切とはいえ、たくさん話すほどいいわけではありません。

友達と長電話をした後、疲れを感じたことはありませんか。

話す動作は、口も喉も頭も使うため、エネルギーを使います。

また、話したことに満足して、行動が伴いにくい欠点もあります。

そこで必要になるのが、無口です。

人が深く考えている瞬間は、無口になるものです。

読書しているとき、人は無口になります。

一生懸命に勉強するときも、無口になります。

人生の悩みについて考えるときも、無口になります。

無口になるから、頭がよく働くようになります。



大事な場面では、やはり無口が必要になるのです。

無口である性格を、別に改める必要はありません。

生まれつき、深く考えやすい性格です。

言葉数は少ないですが、一言一言を慎重に選び、発言できるでしょう。

実は、頭の中でかなり複雑なことを考えられているはずです。

無口は、悩みではありません。

才能なのです。

自分の魅力に気づく方法 その16

無口な自分を、受け入れる。